

お客様各位

株式会社 山喜農園  
新潟県魚沼市原1280-1  
TEL. 025-794-2455  
FAX. 794-4168

E-mail: info@yamaki-noen.co.jp  
HP Address: http://www.yamaki-noen.co.jp

## 球根情勢報告

### 2016年産オランダ産/フランス産価格表（速報版）送付にあたり

平素よりお引き立ていただき誠にありがとうございます。

2016年産オランダ産/フランス産価格表（速報版）を作成いたしました。  
よろしくご確認ください。

価格表を発行いたしますが、相変わらず枚数が多いです。  
コンディション/カテゴリーの数が、前年比さらに増加しています。

さすがに今回は、価格表のみを送付しても、ご理解いただけない部分が多数と、自分自身も感じております。

短くまとめきれぬかどうか…？

ちょっと難しいなあと感じながら、文章を書き始めています。

### 16年産オランダ産/フランス産のポイント

#### 1) 15年の天候の影響を受けての養成球の品質

既に新潟/北海道の球根生産農家の皆様は、ほぼ養成球定植作業は終了しているものと存じます。

当然開花球サイズより小さい養成球は、球根生産時の天候の影響を受けやすい。

さらに、Plamv問題を意識して比較的掘り取り時期が以前に比べて早まってきています。養成球の定植までの保管期間は長くなってきました。

16年産開花球生産用養成球の品質は、近年ではあまりよろしくない球根になっていると予測しています。

**実際、養成球品質不良事故が、国内でも確認されました…。**

#### 2) 定植環境

暖かかった冬とは異なり、3月以降は荒れ気味です。

チュリップ球根の初期生育状況について話を聞きとれば明らかなように、途中まで10日～2週間も生育ステージが進んでいるものと捉えていましたが、5月第1週の段階で1週間～10日の遅れとなってしまっているそうです。

早かったものが遅れる…。いかに3～4月の天候が不順であったかという事です。

3～4月の球根定植時の気象条件は、球根肥大にとってとても重要です。（地温が重要という意味です。）

**初期発根の為です。）**

南部（リンブルグ・ブラボント地域）については、ほぼ定植作業が完了した様ですが、東部（デレンテ・オーバーイセル・リースト etc.）については作業遅れとなり、一部定植をあきらめた農家もあると聞いています。何せほんの2～3週間前に5～6cmも雪が降っている様な状況でした。

何か日本の新潟・東北・北海道の状況に似ています。

定植時の土の状態・初期発根時の地温が低いのは、『百合』の為には全くよろしくない事です。

輸出業社曰く、「5月10日以降の気温・地温上昇が望まれる。」「2013年の様に、6月10日前後まで低温が続くのはまずい。」との認識の様です。

#### 3) 栽培面積

正確な数字はまだ分かりません。

わかっている事

イ) フランス産の栽培面積は、激減する様です。

フランスの栽培面積が減少するのは、O.H系が減るからです。(これはフランスだけではない!)  
O.T系のフランス生産は、まだ少ないのです。

MAK社は、ハリア・テール以外で、各サイズ10,000球以上の販売が出来る品種が無い様です。

ハリア MAKTL (1年栽培)、ハリア MAK2L (2年栽培) も減少しています。

1年栽培と2年栽培の面積比率は概ね25:75くらいの割合となっています。

当社の場合、例として

MAKTL16/18	140,000 球	MAK2L16/18	400,000 球
MAKTL18/20	140,000 球	MAK2L18/20	400,000 球

\*MAK2L18/20サイズはP.O社取扱いの全量と認識しています。

前年より大きく減少しています。

この為、16年産ではMAKTL/MAK2L共に20/22という規格の取扱いもすることにより、なんとか確保数維持に努めました。

20/22サイズは、両コンディション合わせて約150,000球確保しています。

MAKTL/MAK2Lは、当社取扱いハリアの中で最も取扱い球数の多いコンディションです。

どうやら、フランスでのハリア栽培面積は、トータル18.5ha→13.0haにまで減少する様です。(生産農家数4~5軒。)

15年産では当社のみで約5,500,000球のフランス産O.H/O.T系を確保できましたが、(欠品前!欠品後約5,000,000球)16年産ではここまでの所約3,900,000球…。(この数字は、新規に取扱いを開始するL.Aのエルティボ約500,000球を含んでいます。従ってO.H/O.T系については、なんと約3,400,000球しか確保できていません。)

リボンスの生産面積の減少も甚だしく、15年産では約850,000球確保できたものが、16年産では約475,000球のみの確保に留まりました。

シラについては、全体的には大きな減少と聞いていますが、当社の場合コンディションがはっきりしたモノのみ取扱いを行い続けておりますので、比較的供給の安定化が図られ16/18・18/20サイズについてはフランス産に合わせて

	15年産	16年産
16/18	494,200 球	515,000 球
18/20	588,400 球	502,000 球

とまずまずの確保が出来ました。

フランス産を必要とされる皆様には早めの対応が望まれます。

ロ) ブラジル産 A.H/L.A

世界的には、USドルに連動している各国通貨はユーロに対してやや弱く(ユーロ高、各国通貨安!)、メキシコ・ベトナム・コロンビアなど、消費減少が心配されているのですが…、球根農家は、栽培面積を維持から微増という計画を立てていた様です。

世界的には消費球数は既に「天井をついている」という感覚ですので、生産面積の維持増加はいただけません。

一方、一部日本向けの品種では、エスプリの供給量が昨年比約85~90%減少。

17年産N.Z産セヴァ・カプレットの生産休止、Rトリニティ供給量半減、一方チェザレ供給開始など、日本の切花農家の皆様が生産計画を立てる上で極めて重要度の高い品種・数品種においてですら、数百万球分規模の変動が起きています。

ショッキングな状況が確認され始めています。

ハ) ブラジル産 O.H/O.T系

面積についての情報は少なめです。

簡単に言えば、日本向けの主力品種は全てすべからく減少という事でしょうか…。

カブラカ・シベリア・ツルホン・シラ etc. …。一部カーネ・シト・V.Z 系新品種などの増産の動きが見て取れますが、残念ながら、減少速度がそれを上回っている様に見えます。

90 年代後半から 2000 年代初頭に、日本市場はその中心となる品種について、18/20 サイズでも 380～500EURO くらいの単価を払っていました。その時代、世界の育種会社・球根農家は、「日本向け品種の開発・生産」に一生懸命でした。

当社価格表には、今や 400EURO を超える価格の品種がのせられることは少なくなってきました。

実は、その価格帯の品種は、世の中には依然存在するのです。

それは主に赤・黄を中心とした O.T 系となっています。(中国・ベトナム・ 멕시코・その他中央アジア向け etc.)

育種会社・球根農家の目標をいかに日本へ向けていただくか？

重要な課題だと感じています。

『Z.P 社取扱い分のシト』については、16 年産日本向けに輸出計画を立てている内の養成球では約 100%、開花球サイズでは 65%分の球数を割り振りいただきました。(ケシ氏曰く。)

『Z.P 社・VWS 社のみ取扱い供給予定のカーネ』については、16/18・18/20 供給予定数の約 25.5%を確保することが出来ました。(ゲリット氏/ケシ氏曰く。)

4 サイズセットで購入していますが、16/18・18/20 サイズのみで約 160,000 球確保/630,000 球の内。

D.J 社のホワイトパールについては、開花球ベースで対日市場 50%ほどの割振りをいただきました。(アーリー氏曰く。)

カブラカ TYS/VOFTYS・シベリア MAK/MAKTL/2L・ホワイトアイズ・ハイラックス・ハキューピット・P オーシャン・フリンストン・チェザール・フリンストン・タツシ養成球 etc. 取扱い業者軒数の絞り込み、各社に対して供給割合の絞り込みが輸出業者毎に起きているように見えます。

他輸入業者様でも同様な動きが出てきているのではないのでしょうか？供給業社との本当の意味での信頼関係が構築できているならば…。

何となく今までの流れと変わってきている様には感じませんか？

#### 4) 価格動向

##### イ) 為替の動き

15 年産オランダ産/フランス産につきましては、中心レート 1EURO=¥134.5- (15 年 8 月末受注分まで。その後流動的。)

16 年産南半球産につきましては、中心レート 1EURO=¥126.0- (16 年 4 月末受注分まで。その後流動的。)

16 年産オランダ産/フランス産につきましては、現段階ではまだ見極めがついておりません。

1EURO=¥124.0- ¥125.5- ¥127.0-にて計算し、価格をお知らせいたします。

概算価格と受け止めてください。(オランダ産/フランス産の球根代金決済は、概ね翌年 8 月末まで。)

(南半球産の 球根代金支払いは、概ね当年 12 月末まで。)

入荷期/支払期との兼ね合い。

この事により、16 年産球根価格は、13 年産以降では全く品種毎の球根価格イメージが変わるくらいの変化が起きる様に見えます。

##### ロ) オランダ 港渡し価格=FOB 価格

FOB 価格が、私たち日本の球根業社が仕入れる価格です。それをお客様皆様に開示する事はかなり勇気のいる事でしたが、『球根を原材料として営農をされる切花農家の皆様に、各国の球根生産状況・世界の球根消費動向を可能な限り正確にお伝えしたくて、この方法をとっています。

「H I S さん」の分解見積りみたいなものでもありますね！

##### ハ) フランス産

FOB 価は、据え置き位からいくらか上昇・生産面積減少が反映されている。

円高の為。価格は上昇しない。

##### ニ) オランダ産

A.H/L.A 系は、

横ばいから下方修正。円高効果もあり、久しぶりに日本の切花価格対比で適正価格に近づいているよ

うに見えます。

しかしながら、依然 14/16 は、やや高い…。

やはり、12/14 サイズをうまく使いこなせるようにならないと…。

日本向け重要品種の生産減・生産休止が他品種の価格動向に与える影響を考慮したい。

個人的にプラウドを傷つけられたのは、ヨーロッパ・南アメリカ・中東アジア・ベトナム市場では、A. H/L. A16/18 サイズについては平均で、180～190EURO くらい今でも払えるのだそうです。日本市場では、これだけ円高でも 160～170EURO が限界に見えます。

輸出業社から、「お前の為に付き合ってるんだ！」と言われたのは相当悔しかったです。

これらも踏まえ、12/14 サイズ使用可能品種の必要性をものすごく感じているのです。

**\* A. H/L. A 系品種販売状況における最大の特徴は、単一品種/サイズで一定以上の球数が確保できる品種から先に売り切れていく傾向が世界的な流れとなっています。(埼玉深谷地区も) そうでなければ切花市場に新品種が認知されません。**

日本の O. H/O. T 系の球根流通の流れとは全く逆です。この事の持つ意味は？ 将来の百合切花産業の力を握っていると思います。

品種流通の集約化が起きるかも？ O. H/O. T の一部ですら始まりつつあるように見えます。

**大体、球根農家や品種を使い捨てるようなやり方で、次世代品種の構築という作業を、やらせてもらえと思う方がおかしい…間違っている！**

O. H/O. T 系は、

黄色系…横ばいからやや上昇。円高効果で円貨ベースでは大丈夫！

これも、A. H/L. A 系同様、日本向けに特別に安くしてくれている様子。

価格交渉の余地はあまり無い…。それにしてもイローウィン・カティナ・セラノ・アウトバックが、ソルボンヌ・シベリアの球根より高いとは…。ダメだ…世界の常識は日本の常識とは違う…。

ベトナム市場ではイローウィンについては、12/14～20/22 サイズ全て消費可能で、18/20 サイズに払える FOB 価が 350～360EURO との事…これは日本にとってはキツイ！

赤色系…横ばいからやや上昇。円高効果で円貨ベースでは大丈夫！

ピンク系…横ばいからやや上昇。円高効果で円貨ベースでは大丈夫！

それより問題なのは、日本向け品種と考えられる品種の確保の難しさ…。

白色系…カブアラカ・シベリアのみが別枠！ FOB 価は、横ばいから上昇しているが、円高効果で価格は下方へ。それ以外は概ね大きく下降方向…。

プレミアムブロードの価格変更・サンバジの価格変更の影響が白系品種全体に影響した様です。

従って、円貨ベースではかなりの下げとなる…。赤・黄・ピンクの球根価格と比べて白系が同じくらいか、むしろ発表時期同世代クラスの白系品種が安くなるのは珍しいと思います。

カブアラカは、養成球ベースで 10～15% の入荷減少。

開花球ベースで 15～20% の入荷減少が予測されています。

(15 年産欠品前との比較！)

### シベリアについては、かなり踏み込んだ調査をしました。

シベリアは、現在 32 歳。(あと 3 年でパテント/ライセンスが切れます。) 百合の品種は人間に比べてはるかに寿命が短い。成功したと言われる品種でも大体 1/5 か 1/6 くらい。

カブアラカ・ソルボンヌ・シベリアがいかにすごい品種かという事が分かります。

百合は、主要切花品目の中では、1 つの品種の寿命は長い方だと感じています。

ただそれには理由が…使い捨てにできない…してはいけない理由が…。

**シベリアは、**

開花球ベースで、（1年栽培・2年栽培併せて）					
オランダ産15年産約	210 ha				
フランス産15年産約	18.5 ha				
南半球産16年産約	42 ha				
約	270.5 ha				
(5軒の輸出業社からの聞き取り。加えてMAK社からも教えていただける範囲で…)					

1RR=14.28 m<sup>2</sup>×700=9,996 m<sup>2</sup>=約1ha

1RR から 12/14 サイズ以上の球根が仕上がる球数は、シベリアの場合約700球。(本当に作が良くてです。仕上がり球数は品種毎産地毎に異なります。)

作の良い年で、世界市場に流通する球数は、約1億3千3百万球。(ネキッドスケルプロダクションからの開花球・南半球産の仕上がり球数の多さを踏まえ約1億4千万球としてみました。)

生産している農家軒数が最も多い品種です。

オランダ 65軒/フランス5軒(オランダ農家と全て重複) /ニュージーランド 4軒/刊4軒

これが16年産NL/FR産17年産N.Z/C.H産となると

オランダ産16年産約	185~190 ha			
フランス産16年産約	13.0 ha			
南半球産17年産約	35~40.0 ha			
計	233~243 ha			

生産している農家軒数は、

オランダ 55~60軒/フランス4~5軒(オランダ農家と全て重複。彼らは、全員ではありませんが、オランダでも概ね優良農家と言われるレベル。) /ニュージーランド 4軒/刊4軒

となること。

オランダ産をベースに考えた時、5軒の輸出業者毎に見解は異なりますが、各社の取扱い農家軒数は、

A社	25軒内、日本向け	5~8軒
B社	15軒内、日本向け	5軒
C社	8~10軒内、日本向け	3~4軒
D社	8~10軒内、日本向け	3~4軒
E社	不明	

日本向けには、相変わらず品質の良い農家の球根を割り振ってもらっている様です。

さて、ここからの数字が今回の調査で驚いたところです。これらのシベリアはいったいどの国が消費しているのか？

0.H/O.T系をベースに見た時

	総輸入数	白系球数	シベリア
中国	約2億9千万球	約1億5百万球	約9千5百万球~ 1億球
日本	約8千万球	約4千5百万球	約2千万球~ 2千5百万球
その他の国	調べられませんでした…。		

総生産球数約1億4千万球に対して、

中国市場：12/14サイズから20/22サイズまでまんべんなく使用！！しかもなんと1億球内外！世界のシベリア生産量の71%！

**このオールサイズ使用可能な切花消費構造とは？調査しなければ！！**

日本市場：オランダ産・フランス産ベースだと、概ね30：70くらいで16/18：18/20。その他のサイズはほとんど使われていません。

中国市場は、今やあまりにも大き過ぎる。0.H/O.T系で、世界生産球数の約30%近くを消費しています。これは過去にオランダ・イタリア・アメリカ・日本が到達できなかったシェア率なのです。

中国市場においては、多くの東アジア諸国同様、赤・黄色消費国のイメージが強かった…実際、ベトナム・台湾などでは白色系の花色のシェアは低い…。中国だけが（日本を除く）白系花色割合が30～35%となっています。

白系 O.H/O.T 系の中のハバリアが占める割合は、98%内外…。ハバリア以外の白はハバリアの欠品又は新品種開発導入の為に、開発は赤黄ピンク色品種が主体。白系の中国向け新品種開発はほとんど進んでいません。それほどハバリア一辺倒なのです。

中国でハバリアが使われる理由は？

宗教的・文化的に言えば赤黄のはずなのに…輸送問題がカギなのか？

いずれにしても、赤黄色は、複数品種での構成。単一品種では、全ての O.H/O.T 系の中でハバリアがダントツ！

この調査で分かった事は、今後のハバリアという品種の球根生産をどのように維持していくのかを考える時、中国市場の動きはどうしても解っていなければいけない事のように思いました。

カブラカやシラの二の舞にならないように…。(買いたくても買えない…。)

寡黙な人間が多い新潟県人ですが、そんな中で自分を分析すれば「こんなヤツいるか？バカじゃない？」と言われるくらい『おしゃべり』な人間です。自分自身も気が付かないうちに、自分の自慢話や人の悪口を言っているかもしれません。(陰口は言わないで、本人に言う。悪口ではなく、自分の考えを伝えているつもりなのですが。)

文章にするとき、自分の会社を自慢する事はさすがにかっこ悪いと思って勤めて書かないようにしておりました。

ある球根輸出業社が、複数の球根輸入業者に伝えた話を又聞きで聞いた話を書いてみます。  
ある球根輸入会社が日本の切花農家に話していた内容を又聞きで聞いた話を書いてみます。

山喜農園の考え方は、常に一貫して同じである。目指している事は常に品質向上・改善・維持だと…。

90年代半ばから、後半にかけて、カブラカの球根品質は、LMOV/LSV を中心に大きく品質を下げました。一部の球根切花産地が消滅するくらいのインパクトがある事故でした。数軒の球根業社は、業界から撤退しています。

98年に初めて『EVR』という商品を作りました。カテゴリー/コンディション別商品提案のスタートです。

当時のウイルス濃度基準を厳格に守っている球根農家/ロットしか扱わないというメッセージです。

誰に対して？いくつかの輸入業者は、「ただのセルストック」と言いました。「そうやって球根を高く売ろうとしているだけだ！」とも言われました。

数年後の結果を見れば、オランダのカブラカ品質は平均で大幅に改善しました。なぜ…？

良い品質に対して多めの対価を払えば、それに気づいた周りの球根農家もそうしますよね！

L.A 品種で「S-ES」を作りました。開花球養成時にできる「木子」を捨てさせて、リンペン養成球からできる小球とその段階で出来る木子のみを養成球とした開花球しか取り扱わない。そうでなければ、単価は出せないとしました。

その結果、日本でのみ人気の高い「セラガ」という品種は未だ一定以上の品質を維持しています。

開花球木子球からの生産はほぼ無くなりつつあると聞いています。

カブラカ TYS についてはもう説明する必要はないでしょう。

ルボンス・イエローウィンに使った「N-ES」は、ほぼリーフネクトダ問題を解消したのではないのでしょうか！

正直一部の輸出業社・一部の冷静な輸入業社が、山喜農園の仕事を上記した様な評価を頂けたことは驚いておりますし、感謝しております。うれしいです。

どうやら当社がとったこの方法は、球根平均品質を改善させる・維持させる効果があったのだという分

析をしていただけたようです。(球根業界においてはこういった事が正当な競争だと思いませんか?)

正当な努力をしている球根農家や輸出業社に対してその対価を払ってやるのが彼らの生産や品質の維持につながると信じています。

### さて再び、ハリアについて、

近年のフランス産ハリアについては、15年前の平均品質と比べれば明らかに劣っている様に見えますが、ここ2~3年は随分安定してきているのではないのでしょうか?

ハリア MAK に標準より高い価格を支払い続けています。(もう15年くらい経ちますかね?)

ハリア HLC にも標準より高い価格を支払い続けています。…結果、ハリア MAK は、(フランス産は、) 遂に切花用開花球がほとんど流通しない状況にまでなっています。

輸出業社は1軒のみ。日本の輸入業社も1軒のみ。16年産では総数35,000球のみ。と聞いております。(P.O社と山喜だけと聞いていますが…騙されているのかな?)

MAKのハリアは、どこに行ったのか…?

MAK社により生産されている球根、ほぼ全量が、世界のハリア球根生産農家に『原母球』として供給されているそうです。だから切花用球根がほとんど無くなったのです。これはすごく良い事です。少しずつかもしれませんが、その品質改善効果は出てきているのではないのでしょうか?

少なくとも日本に入ってきているハリアの平均品質が上がっている…。

さて、ここでもう一つ大きな問題が残っています。

MAK社のフランス産ハリア 1N:2N比(1年栽培:2年栽培)は、具体的な数字をもって示しました。

16年産のマロ(タス社生産分)の作付面積比率も2:8又は3:7くらいになっていると聞いています。(夏場でもコンディション毎にその到花日数が違います。注意が必要。絶対きちんと分けて切花農家に伝えるべきだと考えます。3軒の輸入業者が扱っていると聞いています。供給輸出業社からはっきり確認を取るべきです。)

ハリア POF-K については、1年栽培はなく、2年栽培のみとなっています。

ちなみにリブルグで生産されていますので、取り扱い会社によっては『ハリア POF-K2N、リブルグ』で販売する球根となると思います。(リブルグはフランス最大の球根生産地帯…。この地域産でコンディションを分ける意味はあるの?9~10月の芽形成調査をしてみてください。他の地域との差は確認できますか?この意味…わかりますよね?)

K…クリク社は、この15年定植分、16年2N掘り取り分で、ハリアの球根生産を止めるそうです。

2N栽培しかない在来種は…、近い将来消えていくことを意味します。(新品種は別!)

各輸出業社からの報告によれば、フランス産/フランス産ハリアの生産を行っている、いわゆる優良品質球根生産農家から順番にハリアの生産を減少させていく様です。(16年産からすでに目に見えて。)

これはクリク社だけの動きではないのです。

なぜ問題なのか?

中国市場におけるハリアの需要が大幅に減少する事は可能なのか?ムリっぽく見えます…。

現状の消費状況と、育成されてきつつあるハリアの代替え品種・開発速度を考えれば、簡単には品種更新が進むとは思にくい。

日本市場におけるハリアの存在は、白系 O.H/O.T 系の50%内外となっており、O.H系全体でも25~30%近い存在となっている。他白系とは、切花消費の場面がかなり違っているのでは…?

面積が減ってきた時…、イェーウィン・コンカールがそうであったように、中国は何 EURO まで払えるのか?しかも複数サイズ買いで…。また日本が買い負けてしまう?

今回の調査で分かった事は、ハリア 18/20 サイズについては、種球を更新して品質を維持していこうという、せつかく生まれた流れに対して、日本市場/中国市場とも現状そのコスト UP 分を払いきれていない様なのです。

本来オランダ産ベースで270~295EUROくらいに最低でももってこれないと…。再生産を意識して品質を維持し続ける球根生産に結び付けていけないのだという事。

当社においては、昨年15年産において取り扱ったハバリア、オランダ産/フランス産は、

16/18 約1,100,000 球

18/20 約1,900,000 球 となっていました。

16年産の仕入も開始し、18/20・20/22 サイズ併せて約1,600,000 球程度の仕入に留めていますが、やはり270EURO以上の価格で仕入契約したものは、マック・クリンク・フランス産のみ。(フランス産は生産原価がオランダ産より高い。もう少し上がらないと…。)

16/18はまだ特定コンディションのみの仕入。

一番安い価格帯のモノ(240.0EURO)は、20,000 球のみで、

ほとんどが250.0EURO/255.0EURO/265.0EURO/270.0EURO/325.0EURO/335.0EURO 価格帯仕入となっております。

ちなみに、一番仕入球数の多い18/20サイズは、MAK2Lの335EURO。次がPOF・EFP 265EURO/JW レート 265EUROの順です。

追加の仕入価格は、上昇する様ですが(球根相場上昇…)、現状では再生産が出来る球根生産者希望価格には到達できていない…。

複数の輸出業社が評価してくれた、一部の日本輸入業者が評価してくれたコンディション/カテゴリ別取扱いを行う事により、強いメッセージを送り、全体の品質改善に結びつけていただいているにもかかわらず…。

今すぐではないけれど、2~4年後のハバリアの球根生産状況と流通価格を意識した準備を始めなければならない年になっていると思います。

何年か後には、ハバリア18/20の標準価格は330EURO位?Z.P社の調査・見解では、中国市場におけるハバリア18/20の価値観は、その位あるはずだそうです…。(現在は250~260EURO水準だそうです…。)

16年産価格表で「POF」・「DJF」・「VOF」・「VZH」・etc、様々なコンディションが設定されています。

「TYS」=「津南雪美人セレクト」を作った時、20件以上いた「カブラカ農家」の中から「輸出業者」より先に「15~16件に候補とする農家」を選別して頂き、約四年間の時間をかけて「5~6件」に絞り込みました。

更に、その四年後には「2~3件」しか残らなかった…のが流れです。

現在、そして将来のハバリアという品種の球根生産供給を考えた時、「努力している農家に対価を払っておく事」が、「先の準備に繋がる」と思います。

宜しくお願い致します。

将来の安定確保を目指していきたいと考えています。

コンディション/カテゴリ別販売は、「スペシャル」とか「セレクト」(正しく使われている場面もありますが)などの営業用のみの差別化ではないのだという事、ご理解いただきます様よろしくお願い致します。

一つ一つの品種、球根には、それぞれの物語があります。歴史があります。

原材料ですが、単純な消費材ではないと考えています。時間をかけないと良くなりません!

よろしくお願い致します。

他の品種でも皆様に『お繋ぎしたい物語』が『山の様』にあります。何らかの機会に説明させていただければなあと思います。

ご不明な点等ございましたら、お問い合わせください。



<http://www.lily-promotion.jp/>  
私共はLPJの経営に賛同し  
協力・応援しています

以上  
森山 隆